

# おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第86号 2021 春』

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集：おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

## おーぷん86号目次

P1 「女子んくせ！」  
さざんか会 理事長 宮代隆治

P3 寄稿『卒園にあたって』  
・とらのこキッズ保護者  
三橋 英子 氏  
・さざんかキッズ保護者  
肥後 りえ子 氏

P5 各事業所だより  
・けいよう  
・ゆたか福祉苑  
・のまる  
・カメラハウス  
・DD・のまのまホームズ  
・とらのこキッズ  
・さざんかキッズ  
・魔法のランプ

P10 北総の里だより  
・北総育成園  
・笹川なずな工房

P12 後援会だより

## 『女子んくせ！』

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

「女子」は「おなご」と読んで下さい。「おなごんくせ！」が今回のテーマです。

二十歳迄を過ごした九州の私の子からこの言葉が吐かれました。例えば、男子に先んじて行動したり、それにより面目を潰された等不愉快と思った途端に「女子んくせ！」が出るのです。

その後続くのは「どうせ女だろ…」とか「出しゃばるな、女の出る幕ではない」、「女は分をわきまえろ」になります。

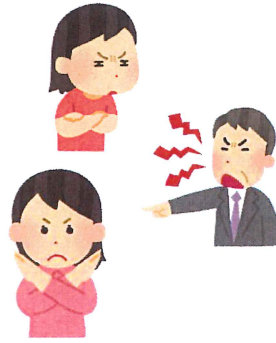
JOC(日本オリンピック委員会)の会長であった森氏の発言が物議を醸し、会長の辞職から新会長の選出等トタバタ劇が展開されました。7月にオリンピック本番を控え、それもこのコロナ

感染禍の最中、開催の是非が深刻な事態を迎えている時期にです。

「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」の発言が女性に対する蔑視であり、五輪憲章に男女平等を掲げるオリンピック精神に反する。これが世界中に伝播し、収拾のつかない事態に陥ってしまいました。



すぐ、謝罪の意を表する主旨の会見が開かれたのですが、森氏の発言に謝罪や自責の念を窺うことよりも、上から目線であるとか開き直りと見た人が大半で、正に「火に油」状態となりました。



この国の憲法には「すべて国民は平等であり、人種、信条、性別で差別されない(一部略)」とあります。男女はあらゆる面で平等であることが原則、当然なのです。しかし、私たちの周囲を見回すと、首をかき上げる様な場面が露呈してしまいます。「女子んくせー!」は死語ではないのです。つい最近も男女の不平等を如実に現す事例がありました。医科大学の入試で、男子受験生の合格率が高く、女子受験生合格率を意図して低くしていた、と。このような事例はおそらく枚挙

にいとまがないのではないのでしょうか。男尊女卑、女性蔑視、これらは私たちの生活に深く根差して来たもののようなのです。例えば、女人禁制ということがあります。昔、宗教上女子の登山は制限されていました。富士山もそうであったよう。そこが、宗教上神聖な場所であり、修行の行われるところ、女性の存在は憚られるべきと。大相撲もそうです。相撲は神事です。神様に奉げるもの。だから、女性は土俵に上がってはならない、と。克服されたものもありますが、未だ継承されているものもあります。そうそう、海の正倉院と呼ばれ大変貴重な文化財であり、神の宿る島として人々の信仰を頂いて来た、玄界灘に浮かぶ「沖ノ島」も女性の立ち入りは一切禁止であったよう。

女性をこのような存在と捉える思想なり価値観は、有形無形において男女の不平等、男尊女卑や女性蔑視に影響しているように思えるのですが。

もっと卑近に事例を見てみますと、例えばその日の一番風呂はその家の主人、つまり男子が入るのが当然、となります。そも

そも「主人」という肩書きからして男子限定。女性である奥さんは「主人人」ではないようです。男女を平等と見ない価値観なりは、この国の家制度にも起因するようです。昨今話題となっている「選択性夫婦別姓」の問題も「家」をどのように捉えるかで意見が別れます。別姓では家族の一体感が損なわれる、との反対意見は首を傾げたくありませんが…。

それでも、時代と共に男女平等の認識、理解なりは徐々に進んでいますが進んできたのではないのでしょうか。ここに到り自問自答です。団塊世代の私に、本当に男女平等が分かっているのか。幾度となく耳にした「女子んくせー!」等と言わしむる思想や価値観は完全に払拭できているのか、と。



こんな角度からも男女平等を考えます。近年、社会福祉のなかならず地域福祉のあり方について「共生社会の実現」が度々唱えられます。このとき、先述の日本国憲法ではありませんが、性別であるとか家柄であるとか、人種であるとかでもって、差別されたり排斥されたりは許されないことです。等しい人権と互いの存在を畏敬し合う関係があってこそその共生であると思いません。

性は人としての存在の根源です。LGBTも含め、自己肯定を基盤として自分の性を全うした人生を送りたいものです。





【特集】 この春、とらの子キッズおよび  
さざんかキッズの卒園を迎えられたお母様に  
ご寄稿いただきました。

## 「少しずつ。一歩ずつ。」

平成26年5月11日、  
幸介はダウン症を持って生まれてきました。  
三人目で、経過も順調  
だった事もあり、産院  
を退院する際に初めて  
指摘されるまで、まさ  
か子どもに障害がある



とは、夢にも思いませんでした。医師からは、  
身体の特徴から、ダウン症候群の疑いがあり  
ダウン症児には50%の確率で心疾患がある  
ので、早いうちに検査を受けた方が良いと言  
われました。幸いにも、染色体検査はこの産  
院で受ける事ができ、ダウン症の診断がつき  
ました。この時、私の様子を察した医師がダ  
ウン症の子どもについて、かなり丁寧に説明  
してくれましたように思うのですが、幸介に障害  
を負わせてしまったという罪悪感と、自分自  
身が子どもの障害を受け入れられない気持ち  
の方が大きく、あまり理解ができませんでし  
た。心疾患の検査もしてほしいと頼みまし  
た。今のところはとも元氣だから、帰宅し  
て大丈夫。発達の専門医を紹介するから、そ  
こからの連絡を待つように言われ、帰されて  
しまいました。また、産院が船橋市外であっ  
たため、市のサポートなどの事は市外なので

情報が無く、全く分からないとも言われてし  
まいました。今となっては、帰宅できた事が  
どれほど幸運だったか分かりますが、ダウン  
症に対して全く無知だったため、訳も分から  
ず夜も眠れず、ただやみくもにネット検索を  
する日が続きました。それから程なくして、  
保健師さんが訪ねてくれるのですが、何時間  
も質問攻めにしたのは、言うまでもありませ  
ん。

そんな中、当の本人はというと、大変な騒  
ぎになっている大人達の心配をよそに、ゆっ  
くりとしたペースではありましたが、とても  
順調に育ってくれていました。生まれた当初  
から本当に良く笑う子で、赤ちゃんてこんな  
に良く笑ったかなと不思議に思う程でした。  
徐々に生活が落ち着いてくると、私の気持ち  
も少しずつ安定し、息子の笑顔から元気をも  
らって、できる事から始めてみよう、東マ  
ザーズホームへ通い始めました。

そして、年中からは無事にとらのこキッズ  
への入園が決まり、苦手な事が多い息子も、  
少しずつ楽しみながら通えるようになってい  
きました。

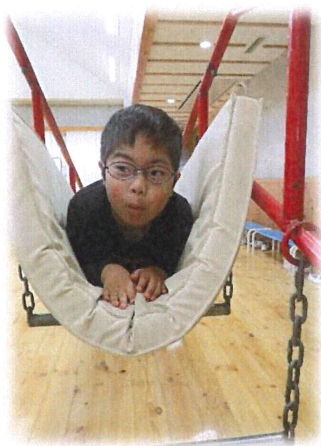
園にもすっかり慣れ、年が明けた頃から、  
新型コロナウイルスが、世の中を混乱させ始  
めました。とらのこキッズでも、感染予防の  
ため自主登園や、分散登園が始まりました。  
混乱の最中ではありましたが、年長になった  
幸介も、先生方に見守られゆっくりなペース  
ながらも、自分でやろうとする姿が見られる  
ようになりました。音に過敏があり、人が集  
まるイベントが苦手なのですが、クラス別で  
開催されたクリスマス会では、不安そうにし  
ながらもみんなダンスをし、サンタさんか

らプレゼントをもらえた姿は、この2年間の  
成長を感じずにはいられませんでした。

いつも暖かく迎えて下さるとらのこキッズ  
の先生方、日々子どもに向き合い頑張ってお  
られるご家族の方達に出会うことができました。  
相談できる場所があるということが、大  
きな支えとなっています。先生方は、感染予  
防をしながら、子ども達のためにどう療育を  
続けていくかを懸命に考えて下さいました。  
それがどれだけ大変なことだったか、私には  
想像すらつきません。また、例年通りとはい  
かなくなってしまうた役員の業務なども、新  
年度が始まる前から負担がかからないように  
と、沢山のフォローをして下さいました。本  
当に感謝しております。

4月からは、特別支援学校へ入学します。  
この先もまだまだ不安定な状況が続くかもし  
れませんが、とらのこキッズでの思い出を胸  
に息子と一緒にゆっくり少しずつ、前に進め  
たらと思っています。大変お世話になりました。  
ありがとうございます。

とらのこキッズ 保護者 三橋英子





# 「かけがえのない時間」



クリスマス会にて  
理事長サンタさんからプレゼントを  
もらって うれし〜い♪

我が家の小さなパワフル娘みーちゃんは、4月から特別支援学校の一年生になります。

6年前の今頃。桜の蕾がふくらみ始めた頃でした。あと1ヶ月で生まれてくる…と楽しみに向かった妊婦健診の日。医師の顔がみるみるうちに険しくなり「一度調べてみましょう」と言われるがまま紹介された病院に行きました。医師から、考えられる幾つかの病名と障害名を言われました。「生まれてくるお子さんには何かしらの障害があると思います」とはつきりと言われた、あの時の景色は一生忘れることができないでしょう。夕方の静かな病院。娘の心拍音だけが鳴り響いていました。私は一瞬で不安の中に突き落とされ、上の子の顔が浮かんで胸が苦しく、必死で感情を抑えています。私の気持ちと共鳴するかのように心拍音もトトト…と早まり「この子

には全て伝わっている」と絆のよなものを感じ、不安と愛おしさの間で涙がポロポロと止まりませんでした。我が子に会える幸せから、会つのが怖いと一転した日々。そんな私の気持ちとは反対に2週間早く生まれてきました。「みんなに早く会いたい！」と待ちきれなかったのでしょうか。今となれば娘らしいなと思えます。

生後1ヶ月にダウン症の診断を受け、そこから暗中模索の育児が始まりました。気になる事があればネットや本で調べ堂々巡りに陥ったり、上の子との成長の違いにダウン症だから…と決めつけ落ち込んだり。何が正解なのか分からない、正解を探そうと必死でした。1才2ヶ月から西マザーズホームに、3才半からひまわり親子教室に通い、年中組からさざんかキッズに入園しました。



マザーズの頃

この2年間でゆっくりながらも着実に成長していききました。毎日の連絡帳や先生との面談で教えて頂く園での様子はイキイキとしていて、その姿が目には浮かび思わず笑顔になりました。体格は2才の

子と同じくらい娘ですが、その小さな体には夢と希望を詰め込んでいるかのよう。「やりたい!!(やりたい)」と少ない言葉でエネルギーを溢れさせる。体の小ささから出来ない事も色々ありますが、小さな手足を力の限り伸ばし何度もチャレンジする逞しい娘。まだまだ終わらない現在進行形の長いイヤイヤ期。心も体もゆっくり成長中の娘に、先生方はいつも温かく寄り添って下さいました。そして、娘のやる気の源となっているさざんかキッズのお友だち。お友だちの存在は娘の心を前向きにし、笑顔にしてくれる素敵な力を持っています。一人ひとりに感謝でいっぱいです。バスから家までの帰り道「みーちゃん、今日も楽しかった?」と聞くと「うん!」と胸を張って歩く娘。その小さな後ろ姿に、今出来る事を一つ一つやっつけていく…こうやって一緒に強くなっていくんだな…と背中を押されている気がします。

我が子の障害と向き合う時、現実を突きつけられた時、この先を考える時、まだまだ未熟な母親の私は、どうしたらいいのだろう…と悩むことが沢山あります。そんな自分に力を与えるのもまた、毎日を懸命に、純粋に生きる我が子の姿です。

さざんかキッズで過ごした日々は、かけがえのない時間となりました。先生方から溢れんばかりの愛を頂き、娘の心の根っこは「さざんか栄養」たっぷりになりました。これからどんな花を咲かせるのか、夫と一緒に大切に育てていきたいと思えます。

6年前に見上げた桜は切なくて涙でかすんでいたけれど、今年の桜は私たち夫婦に新しい一歩を踏み出す勇気を与えてくれることでしょう。

この2年間、先生方には親子共々支えて頂きました。毎日、たくさんの笑顔と愛情を本当にありがとうございます。思い出一つ一つが私たち親子の大切な宝物となりました。

そして、出会えた素敵なお友だちとご家族。皆様の毎日が、沢山の笑顔に包まれますようお願いしております。



さざんかキッズ  
保護者 肥後 りえ子



# けいよう

7月から始まった改修工事も終わり、新しくなったけいようで利用者さんも毎日楽しく過ごされています！  
今回は、改修後の様子と利用者さんの様子を一部紹介していききたいと思います。



## 🎤 カラオケ大会 🎵



## ★ 改修工事 ★

改修工事も終わり、けいようも綺麗になりました！  
机や椅子等も新しくしました！



新しくカラオケ機器を導入しました！  
感染対策にもしっかり取り組んでいます。  
歌うだけでなく、ダンスや体操も出来るので皆さんとも楽しんでいます！

# ゆたか福祉苑

今年度初めてのおーぷんとなりました。  
さて、例年通りですと秋祭りなどの行事を書かせていただくのですが、今年はコロナの影響で大きなイベントはできませんでしたが、今年度も沢山の新人が入りましたのでご紹介させていただきます。

## 新人スタッフ紹介

<p><b>ユーカ班</b></p> <p>たけいちさだあき <b>武市定明</b></p>	<p><b>ユーカ班</b></p> <p>すずきひろみ <b>鈴木裕美</b></p>	<p><b>ゆず班</b></p> <p>あさだまさや <b>浅田雅哉</b></p>
<p><b>ラベンダー班</b></p> <p>いとうともこ <b>伊藤友子</b></p>	<p><b>ラベンダー班</b></p> <p>はしやだしょうた <b>橋谷田翔太</b></p>	<p><b>カモミール班</b></p> <p>たかはしみつこ <b>高橋光子</b></p>
<p><b>カモミール班</b></p> <p>おかばやしひろか <b>岡林宏佳</b></p>	<p><b>ライム班</b></p> <p>そのべみ ともお <b>園部美都男</b></p>	<p><b>事務</b></p> <p>もくとともみ <b>元戸友美</b></p>



# のまるる



のまるでは、10月4日にのまるるんフェスタを、12月20日にはクリスマス会を行いました。コロナ禍という事もあり、のまるるんフェスタは、ユニットごとにレストランに来て頂き、クリスマス会は、各ユニットに有志が回るという工夫をしました。



両日とも工夫を凝らした出し物があり、ご利用者様お一人おひとりが楽しまれていて、良い表情を沢山見ることができました。大変盛り上がり、コロナウイルスをも吹き飛ばすような勢いでした。今年度もありがとうございます。来年度も皆様の楽しさが伝わるような内容を届けていけたらと思っております。



## ペッパー君がやってきた

のまる管理者：泉一成

のまるに令和2年10月中旬からソフトバンクのロボット「ペッパー君」が玄関でお出迎えしています。

船橋市障害分野におけるロボット等導入支援事業補助金を活用し、入居されている皆さんへの心の癒しになればと思ひ応募しました。

導入のきっかけを作ってくれたのは、グラスグループの友野剛行さんです。昨年、友野さんから、北総育成園で新型コロナウイルス感染症が起きた際、利用者さんの心の癒しや職員が日々大変な思いをして現場を支えていると思うの



で支援の現場にソフトバンクからペッパー君を派遣したいと相談があり、何かの縁ですね。

操作画面を立ち上げておくと自分でタッチパネルから好きな音楽やレクリエーションを立ち上げて、声をあげて笑う入居者さんの姿を見て職員も大笑い。

まさに「一日一笑」の思いがします。ロボレクと一緒に体操をすることもでき、のまるに来たペッパー君は介護バリエーションです。ソフトバンクの担当者に聞くと、保育の現場や学校、高齢者施設でも今や引っ張りだこの状況だそうです。AIの導入は今後の支援には必要なかもしれません。

入居者さんの中には、ロボットなので表情が変わらないことで怖がる方もいるようです。まだまだ、支援の現場には、心のぬくもりや愛情、といった感情表現が、他者を安心させることに気づかされました。残念ながらペッパー君は3月末で「退任」です。いつの日か、のまる専属のペッパー君が、玄関やユニットのリビングに配置できればうれしいですね。ペッパー君お疲れ様!!



# カメラリアハウス



★ カメラリアハウス新しくなりました♪

新しくなったカメラリアハウス♪ ちよつこのぞいで  
みませんか♪



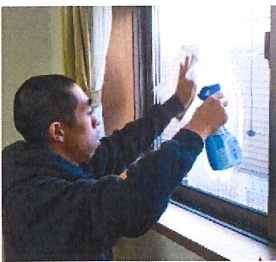
建て替えも終わり、1月から新しいカメラリアハウスで活動しています。半年間借りていた借家は、昔ながらの一軒家で隙間風などが寒かったのですが、新しいカメラリアは暖房の設定温度が低くてもすぐに暖かくなることにまず感動しました！また、死角があまりないように設計されています。



今回のホーム便りは、のまのまホームズで入居者の皆様に協力していただき、ホーム内の清掃を行いましたのでその時の様子をお送りしたいと思います。



ステイホームで入居者の皆様にはご不便お掛けしますがこの機会を利用し、窓ふきや掃き掃除等を行いました。皆様頑張っていたいただきましたので終了後はシュークリームを用意し、ご満悦のご様子でした。



久方ぶりのホーム便りとなりましたがいかがでしたでしょうか？まだまだ気が抜けない状態ですが、はやく収束し、元通りの生活が送れることを願っております。





# とらのこきッズ



12月19日、とらのこキッズでは、クリスマス会が行なわれました☆今年度初めての親子行事は、「どんな事が始まるんだろう...」と子ども達も少し緊張した雰囲気ですスタートしました。

毎年恒例の軍手隊では、「サンタが街にやってくる」と「あわてんぼうのサンタクロース」の曲に合わせて、カラフルな軍手が動き、

ペープサートや楽器も出てきて、子ども達は興味津々で見っていました★

そして、今年もみんなが大好きなサンタクロースが来てくれ、一人一人にプレゼントを渡してくれました♡「中身は何かな?」と袋を覗き込んだり、大事そうに抱えたり...みんなの嬉しそうな表情がとても印象的でした!

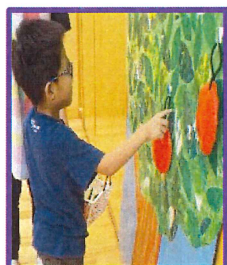
短い時間の中での開催となりましたが、皆さんの笑顔が溢れる、温かいクリスマス会となりました★



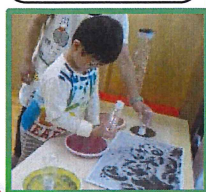
# さざんかキッズ



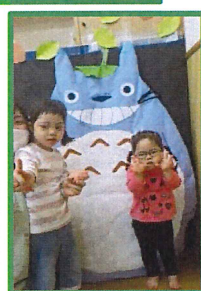
今年度は新型コロナウイルスの影響で、集会や保護者の方々をお呼びしての行事がなかなかできない状況ではありましたが、コロナ禍でも子ども達には楽しんでもらいたいという思いで、秋祭りやクリスマス会等、規模を縮小して行ないました。秋祭りでは、エアートランポリンで作った大きな滑り台やフルーツ狩り、トトロの森を探検!?!できる等、各コーナーでたくさん遊びました。どのコーナーも、子ども達の楽しそうな笑い声が響いていました。



フルーツ狩りの後はみんなでジュースを飲んだよ



クリスマス会では、毎度おなじみ「サンタ&トナカイ」コンビが現れてみんな大喜び♡  
サンタさんからプレゼントをもらってニコニコでした😊







## ランプ発

こんにちは。魔法のランプの小池です。2回目の緊急事態宣言が発令された中、この原稿を作成しております。

コロナの事に関連して文章を考えるとマイナスの事しか思い浮かばないので、あえてこのコロナ禍の中でこんなところにサービスで行ったよ!というお話しさせて頂きたいと思います。

1つ1つ最近よく行くコースとして我孫子経由の成田方面の電車です。土日

平日問わずいつも空いていて、電車乗りにはうってつけのコースです。

また、松戸〜国府台間の江戸川沿い散歩もいいですね。但し!今の時期は風が冷たく寒いです。距離も長く約7km。防寒対策はしっかりしたほうが良いですね。あとは手賀沼沿い

です。10年ほど前にサイクリングコースが整備され、最高の散歩コースになっています。印旛沼も行った事があるのですが、「歩く」ということに関しては圧倒的に手賀沼の方が安

心です。道幅は広く歩行者と自転車のレーンが別々にあります。車の方が行きやすいですが北柏駅や我孫子駅からでも比較的すぐに手賀沼まで行けます。「散歩」に関しては天気さえよければ候補はかなりあります。

※魔法のランプでは現在新型コロナ感染症拡大防止のために千葉県内のみでのお出かけに限定させて頂いております。

魔法のランプ 小池 史裕



# 北総の里だより

『北総育成園より』  
支援課長 絵鳩 典子

前号のおーぶん特別編集号では、当園で発生した新型コロナウイルス集団感染について報告させて頂きました。その後、日々の利用者、職員の健康管理、衛生管理に今まで以上に力を入れ、お陰様で大きく体調を崩す方もなく日常生活を送っています。改めまして保護者、関係者、法人の皆様のお力添えに感謝申し上げます。

毎年12月に入ると、利用者の皆さんが楽しみにしている行事が目白押し。東庄ライオンズクラブの皆様からの招待クリスマス会、千葉伝統郷土料理研究会による太巻き寿司教室、村議会主催の忘年会、そしてお正月外泊。外泊が叶わない方は紅白歌合戦からのカウントダウンパーティー、厨房手作りのお雑煮におせち料理、初詣が楽しみでし

た。そのすべてを、新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止と

言う判断をしました。利用者さんの気持ち、そしてもう1年近く我が子に会うことができていない保護者の皆様の気持ちを考えると、形を変えてでも何とかできないか？検討を重ねました。しかし、今年は「我慢のお正月」。

その事をきちんと利用者の皆さんにも伝え、この難局を乗り越えようと12月に2回、説明の場を設けました。説明には新聞記事やイラストを用いて、より利用者さんが理解しやすいよう工夫もしました。皆、真剣な表情で職員の話聞き、受け入れてくれました。もちろん少しでも皆が楽しめるような取り組みも発表。有難いことに東庄ライオンズクラブ、地元のスーパ、そして保護者会の皆様からお菓子や手袋などのプレゼントを頂きましたので、職員が代理となって皆さんにお渡しすること、外部のお店を利用して豪華なおせち

弁当などを献立に取り入れることをポスターにして館内に掲示しました。また職員手作りのお正月飾りも各ユニットに掲示、少しでもお正月気分を味わってもらうようにしました。

12月25日は職員がサンタクロースに扮し各ユニットを回りプレゼントを配りました。予想以上に皆さん喜んでくれました。



元日は早起きしたメンバーと初日の出を拝み、三が日はお正月らしい穏やかな天気の中、少人数のグループに分かれて初詣を兼ねて須賀山城址をお散歩。「うち、かえらないの?」と聞いてくる方もおりましたが「コロナがまだ流行っているからね。」



もう少し我慢しようね。」と声を掛け、何とか無事に年末年始の時は流れました。  
この新型コロナウイルスはまだまだ終息の気配が見えませんが保護者の皆様におかれましては我が子に会えない寂しさが続きます。それでも、職員を気遣い感謝の気持ちを伝えてくださいます。そんな保護者の皆様のお気持ちを我々職員はしっかりと胸に刻み、今後衛生面での基本的な所作を積み重ね、利用者共々体調に十分留意して参ります。一日でも早く終息し、安心して再会できる日が来ますように。その日を楽しみに、今日も元気な挨拶から一日が始まります。



## 『笹川なすな工房』

この一年

施設長 荒井 道貴

令和2年は、当施設に限らず世界中が新型コロナウイルスに振り回された1年でした。年明けの頃は、中国でヘンな風邪が流行っているらしいとか、2月のダイヤモンドプリンセス号の時もまだ遠い場所でのことと他人事でした。当施設の利用者は佐原や銚子から電車を使って通ってくる人が多く、「成田あたりまでに感染が広がったら、危険だな」とのんびりと考えていました。3月28日に北総育成園での感染発覚でその運営ががらりと変わりました。

笹川なすな工房は幸い利用者の感染はなかったのですが、安全を考えて即座に事業停止をしました。そして、工房として何が出来るのかを検討しました。自宅待機している利用者へは毎日の体調管理や家での「やること表」を渡し、電話で連絡にて確認をしました。

前回の「おーぷん」特集号にも報告があったように県内の施設

が北総育成園の食事支援として弁当の宅配をして頂きました。当施設としても北総育成園へできる支援として、その中継基地となり食材刻みや温かい味噌汁作りをしました。今思うとまだ出来ることがあったのではないかと、悔やむことがあります。

結果、施設は5月6日まで休止しました。再開してからも苦悩は続きます。すぐに以前のようパンやジャムの生産をすぐに始めるわけにはいきません。1カ月以上の間、自宅待機をして体力や働く意欲が低下した利用者へのリハビリをしなくてはなりません。朝寝坊を覚えた人達には朝起きることもつらいことです。まずはウォーキングと環境整備の草取りから始めました。最初は体を動かすことが辛かったのですが1週間も過ぎると、利用者の口からも「草取り楽しいね。」との声も出てきました。有難いことに、北総育成園から朝食用のパンの注文をして頂けました。少しずつ生産が始まります。体を動かすことを中心に作業でリハビリをしました。

秋になっても今年はいベント販売が全部中止です。例年毎週



日曜日には、大量の製品を作り保護者のお手伝いも頂いて販売をしていましたが、今年は販売活動ができない辛さを感じます。

12月になって注文が徐々に増えてきました。近隣の特別支援学校から、販売を復活してほしいとの要望が上がりました。感染予防の観点から、対面販売を避け、注文販売から始めました。各学校、当初1回から始めましたが、もっと販売回数を増やしてほしいと要望があり、数回増やしてきました。近隣の道の駅からも「製品を持ってきませんか」とお誘いがかかりはじめました。本当にありがたいことです。徐々に場面を増やしました。

また、近日になり東庄町から、「地元の子供たちに笹川なすな

工房のマフィンを食べさせてあげたい。」と、子ども園、小学校、中学校の児童・生徒さんたち1,100人に2個ずつ、計2200個を製造・納品をしました。今までにない量の注文に利用者も職員もうれしい悲鳴が上がります。2月9日に各学校まで納品。家にお土産にと持って行った家庭から、「美味しいのでまた食べたい。」と多くの家庭から注文がありました。この様子は、千葉テレビや新聞報道もされたのでご存じの方もいると思います。



苦しい1年でしたが、地域の皆様から「笹川なすな工房のパンやジャムが欲しい」と、温かい声援をたくさんいただきました。徐々にではありますが、皆様の励ましに励まされるようになっていきたいと思います。



# 後援会だより

## コロナ禍に思うこと

### わざわざか会後援会会長 藤澤 新作

新型コロナウイルスによって、これまで思ってもいない、通常の想像をはるかに超えた現象に遭遇しています。目に見えない恐怖や、手の打ちようのないもどかしさに苛まれ、混乱しているのが現実ではないでしょうか。

しかし、悪い事ばかりではありません。コロナによって、これまで私達が当たり前と想ってきた考え方、方法、システムが問題になっており、今一度、原点に帰って見直しをしなければならぬことを示していると思います。そこで、その一つとして、自分の体について、改めて考え直すのも、これからの心の拠り所になるのではないかと思い、「免疫

力」について、ある医師の話を述べたいと思います。



「昨年は、病原体に対する人類の無力さを、世界中が痛感させられた年であった。遡れば、人類は誕生の時から細菌やウイルスとともにあり、医療の役目は感染症との闘いだったと言われている。

この新型コロナウイルスには、サーズやマーズにはない難しさがあります。感染しても症状の

みられない「無症状感染者」が多いことです。その無症状感染者も潜伏期間にウイルスを拡散させてしまうため、感染が拡大しやすいことが分っています。今、多くの人たちが恐れていることの一つは、自分や自分の大切な人たちが、重症、重篤のグループに入ってしまったらどうしようということだと思います。でも先ず、感染者の8割は軽症だという事実を目を向けてみてください。そして、感染しても症状の出ない無症状感染者がほとんどという事実も思ってみましょう。

なぜ、感染しても無症状か軽症の人がほとんどなのでしょう。一方で、なぜ重症化して亡くなってしまっているのでしょうか。ここから見えてくる答えがあります。

この新型コロナウイルスにおいては、たとえ感染しても発症しないことが最も重要だと私は考えています。今、日本には、恐怖と不安を強く感じさせる情報

が溢れています。けれども、私達は、新型コロナウイルスに対して何もできない訳ではないのです。自ら免疫力を強化することによって日々実践していけば、感染しても発症せずに済むことが可能です。そのためには、まず免疫とはどのようなシステムで、どのように形成され、どのように強化できるのかを知ることです。次に、毎日の生活の中に、実践できることを一つずつで良いので行っていくことです。

そうやって、免疫力を正しく高めていきましょう。それが、新型コロナウイルス感染症に限らず、あらゆる病気を防いで、健康に自分らしく生きていくための、最善の方法だと思っております。』

